

在宅医療療養支援診療所として在宅を多くの皆さんに今まで以上に知っていただくけるよう「在宅医療」に関する事例を掲載していますが、今回は社会問題化もしている「老老介護」の事例を取り上げました。

(1) AさんとBさんは2人暮らしの姉妹

- ・妹のBさんは認知症・腰痛が進み、姉のAさんが全てのお世話をしていました、ご自身も90才を超えて負担が大きくなっていました。
- ・悩んだAさんは、自分が通院する診療所に相談。Aさんの話から訪問診療可能と判断した医師が在宅での対応を説明。在宅医療をこの時初めて知ったAさんですが、医師の話を聞いてやっと安心しました。
- ・まず医師はケアマネに連絡して介護認定の対応を依頼。在宅医療開始に向けて動き出しました。

(2) 次のハードルはBさんの病院嫌い

- ・介護認定には診察が必要ですが、Bさんは昔からかなりの病院嫌い。どうしても受診してくれず、Aさん1人の介護が続きました。
- ・でも、Aさんやケアマネが説得しなんとか受診。無事介護認定となり在宅医療が開始になりました。
- ・当初Bさんは医師に触られるのも拒否したため、月1回の訪問診療でスタート。同時に訪問看護が入りAさんの負担を軽減しました。
- ・Bさんが徐々に慣れてきた頃、月2回の訪問診療に変更したことで日頃の状態がより把握でき、緊急時の対応も迅速にできる状態となりました。
- ・また、腰痛も医療の介入で徐々に回復し、Aさんと朝夕散歩することが日課となりました。



Bさん(妹)：90才 認知症 介護3

Aさん(姉)：92才 同居・Bさんを介護

姉妹2人住まい。他の介護者はなし。

(3) 在宅医療で連携する医療機関・介護事業所



(4) 訪問診療の料金

(個人負担分 *1割負担の場合)

医療保険：5,916円/月

介護保険：588円/月

※他に検査代や薬局での薬代等が必要です。

(外来受診時と同じご負担です)

<解説・補足>

- ・2016年国民生活基礎調査によると、介護する人もされる人も65才以上のいわゆる「老老介護」は54.7%、75才以上では30.2%。15年前の2001年は65才以上が40.6%でしたので、1.3倍以上に増加しています。
- ・また、2016年厚労省自殺統計によれば、「介護・看病疲れ」を動機とした自殺者数は年間で251人、そのうち年齢が60歳以上の方は144人で、全体の約6割を占めるという悲しい現実となっています。
- ・**介護の悩みは1人で抱えず、Aさんのように身近な医療機関等に相談すれば、解決策は見つかります。**
- ・また、Bさんのように病院嫌いの患者さんも時々いらっしゃいますが、ケアマネは経験を活かし根気よく対応してくれます。そんな方でも訪問診療が始まれば、いつの間にか在宅医療が当たり前となることも多く、**その結果介護者の負担は軽減されます。**
- ・家族が介護になっても心穏やかに暮らすために、在宅医療は今後ますます大きな役割を担っていくことになると感じています。
- ・余談ですが、Aさんはその後ご自身も介護が必要となりました。これが老老介護の現実かもしれません。



わかばクリニック

安心を
お届けする

〒862-0903 熊本市東区若葉3丁目13-20
 ☎096-285-6014 web:wakaba-cl.jp